

序

最近の試薬の進歩は、とくに分子生物学、細胞生物学領域で著しいものがある。たとえば、ある論文が「Cell」に出て、いくつかの新しい試薬を駆使しているとする。数カ月後それらをキットにしたものが売り出されるといった状態である。研究者がしなくてはならないことに、Sigma, Amersham, BioRad, 国内ではフナコシ等の広告に、絶えず目を通さねばいけなくなったということは、昔と違ったことであろう。

本号はこのような試薬の進歩をふまえて、主として細胞生物学、生化学領域を中心に、生理学、薬理学の領域でも次々と出てきている新しい試薬をまとめてみた。機能別に大まかな分類を行って、それぞれの機能を知るために最近使われてきた試薬を取り上げ、それぞれの研究室で使うノウハウもできるだけ書いて頂いた。各分類の編者の方に総論を書いて頂き、各論は編者の方々から指定して頂いた。したがって各論の各項目はそれぞれの編者の方々の方針が出て個性的なものとなっている。

最近、われわれの領域には似かよった雑誌が多く、特集もぶつかりあったりすることが多い。しかし本号の特集はこれまであまりみたことがないし、非常にユニークなものではないかと本誌編集委員一同自負している。ひとえに各編者を中心にした執筆者の方々のご協力のおかげである。

本号が国内のこの領域に関係したすべての研究室に置かれ、研究の進歩に役立つことを願うものである。

編集委員